

みんなで協力 身近な環境改善

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
 (文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

「松毛川千年の森づくり」に韓国の学生も参加



9月3日の夜遅く、韓国の済州島から、日韓青少年環境交流提言事業の一行10名が三島に到着。

4日は、GW三島の実践地を視察後、「松毛川千年の森づくり」活動に参加し、記念の植樹をした。また、豊岡武士三島市長を表敬訪問。

5日は、富士山エコツアーで富士山周辺の視察や、清掃活動を体験。夜はGW三島関係者との交流会。

6日は、渡辺豊博専務理事による環境に関する講義後、日韓の学生たちが「日韓若者環境フォーラム」で「環境と観光の共生」をテーマとした意見交換。その後「バイリンガル環境かるた」を体験し、東京へ出発。



(左から) シャ・ムン・ジュン団長 済州大のユン・ミ・レさん、済州大のユン・ダ・レさん、済州大のヤン・ヒョン・ジンさん (大学生は3名) 中央女子高のユ・ヒョン・ビンさん、済州女子高のバク・ジョン・ヒョンさん、セファール高のバク・ス・ビンさん、セファール高のキム・ヒョン・アさん、セファール高のホ・ジュ・ヨンさん、ナムリョン高のヤン・ウン・ジンさん (高校生は6名) 【日韓青少年環境交流提言事業・韓国側メンバーと引率者】



日韓青少年交流事業関連記事はP2を参照のこと

海外メディアに活動紹介

10月1日～2日、世界文化遺産登録を目指す富士山の情報発信をしてもらおうと、静岡県東京事務所が招致した外国人記者の県内見学ツアーが行われた。イギリス、アメリカ、フランス、スペイン、バングラディッシュ、中国、台湾、香港の海外メディア日本駐在員12人が、富士山にゆかりのある富士宮市や三島市、その他関連施設などを訪問した。一行は2日、GW三島を訪問。源兵衛川や「三島梅花藻の里」を見学し、渡辺豊博GW三島事務局長から説明を聞いた。記者たちからは、GW三島の活動内容について、あるいは富士山が世界文化遺産に認定された時の環境への懸念などについて質問が出た。(新聞記事の写真は三島梅花藻の里にて)



GW三島のESD(持続発展教育)を報告

11月3日、日本大学国際関係学部三島駅北口校舎で、社団法人日本マレーシア協会主催の環境理解セミナー「熱帯雨林を考える！」(マレーシア・ボルネオ島における地域住民参加による熱帯雨林再生活動)が開催された。(社)日本マレーシア協会関係者の熱帯雨林再生活動報告や、その活動にアドバイザーとして関わっている日本大学国際関係学部富岡丈朗准教授および参加した大学生の、ESDの推進・普及に関する報告があった。次に、GW三島のESDの取り組みについてGW三島小松幸子理事長が報告した。参加者の中には、「GW三島の取り組みは、日本のESDのリーダー的存在ではないか」と評価する人もいたほどで、その後の意見交換でもGW三島の活動が目目された。



韓国の若者交流・つづき



▲源兵衛川の美しい清流に足を浸して歓声を上げる韓国の若者たちは、「ちゃんかけ拾い」も体験。

▲松毛川の千年の森づくりにも参加。GW三島のインターンシップ生は前後2日半も、熱心に整備作業。

▲日韓の若者が環境や観光について意見交換。韓国の大学生は、山に登る人たちにロール式ゴミ袋を手渡し、ゴミを持ち帰るよう啓蒙しているようだ。

▲日韓の若者が『バイリンガル環境かるた』を体験。読み手は、アメリカ人青年。

韓国・済州島を訪問
日韓青少年環境交流事業を推進

9月13日～16日、大学生9人、GW三島スタッフと事務局6人と渡辺豊博GW三島専務理事の16人は、韓国・済州島を訪問し、日韓青少年環境交流をしてきた。



ゴミ拾いもしてきました！

済州島は、韓国の最高峰でユネスコ世界自然遺産にも登録された漢拏（ハルラ）山（1,950m）を有し、山麓は豊かな湧水に恵まれている。一方、世界文化遺産への登録申請を控えている、日本の最高峰である富士山の裾野に位置する三島市も湧水の都であることから、共に水や森をテーマとした自然保全に熱心に取り組んでいる。この事業では、漢拏山と富士山における環境の現実と問題を相互訪問することで学び合い、相互の交流・情報発信をとおして、大学生や高校生がそれらの課題解決の方策を提言・議論し交流することを目的としている。

三島市の初任者教員の研修



10月11日、三島市の小中学校初任者教員16人の研修に、GW三島の加須屋真アドバイザーとインストラクターたちが対応した。

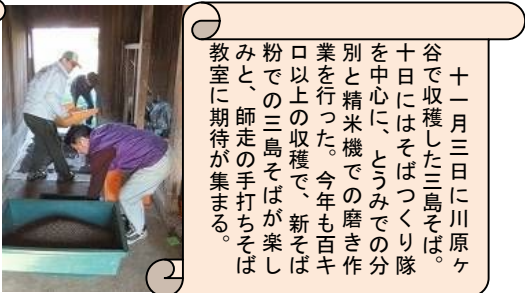
白滝公園から源兵衛川の7ゾーンまで観察しながら歩き、今後に生かしたいと各所で熱心に学んだ。特に、7ゾーンでの生き物観察体験は、新鮮だったようだ。



九月二十八日、伝統ある腰切不動尊の例祭を実施。



九月二十九日、GW三島の理事・評議員が実践地を視察。ソバ畑では、背景に富士山が姿を見せる。



十一月三日には川原ヶ谷で収穫した三島そば。十日にはそばつくり隊を中心に、とうみでの分別と精米機での磨き作業を行った。今年も百キロ以上の収穫で、新そば粉での三島そばが楽しみと、師走の手打ちそば教室に期待が集まる。

「エコ・アグリ スタディツアー」

「水の都・三島街中再生協議会」より委託され、昨年より実施しているツアーを、ガイド経験が豊富な城所祖帝（きどころゆきただ）さんを講師に、下記の内容で行なった。（今年度中に、もう2回実施の予定）



- 研修日時 8月21日 9:30～17:45
 - テーマ 街中にぎわい再生エコツアー
 - 概要 伊豆一の宮から伊豆三の宮の「鎮守の森」を比較しながら、歴史を巡るツアーとワークショップ
 - コース GW三島運営の三島街中カフェ→浅間神社（伊豆二の宮）→鎌倉古道→圓明寺（孝行犬の墓）→秋葉山小祠→赤橋→腰切不動尊→楊原神社（伊豆三の宮）→法華寺→祐泉寺→一服処「ムラカミ屋」→三嶋大社（伊豆一の宮）→足水→鏡池
- ※コースを歩いた後のワークショップで、街のにぎわい再生に向けて多くの意見が出された。次回からは市外の方々にも参加してもらい、さらに新鮮な目で、三島の魅力再発見につなげたい。



わが庭に降り積もりたる白雪は 真向ふ富士の上までつづく

元日本大学教授 文学博士 藤岡 武雄さん
三島市千枚原在住



日本歌人クラブ顧問
三島宗祇法師の会会長
小出正吾児童文学顕彰会会長
裾野牧水を語る会会長
斎藤茂吉を語る会会長
短歌誌「あるご」主宰

藤岡武雄さんの名刺より

大正 15(1926)年、山口県大津郡日置村（現長門市）に生まれる。歌人の父の影響を受け、幼少より短歌にふれる。15、6 歳で作歌に志したころ、斎藤茂吉の歌集『暁紅』に心惹かれ、次々と茂吉の歌集を愛読。“この歌人への傾倒が少年期から青年期の心の支えとなった”と、『評伝斎藤茂吉』のあとがきにある。

山口師範学校卒業後、日本大学で国文学、日本大学大学院で近代文学を研究、斎藤茂吉研究の第一人者となる。昭和 37(1962)年、日本大学三島高等学校の教師として三島に赴任して以来、三島在住。三島との関わりを深めてきた中の 1 つが、三島に埋もれた貴重な歴史的、文化的遺産の発掘と発信のための活動である。多岐にわたる話の中から、以下の 4 点に絞って紹介する。

三島 水辺の文学碑 三島ライオンズクラブの要請を受け、湧水の流れる桜川水上通りに文学碑を建立することになった。三島ゆかりの歌人や小説家の選定の中心を担ったのが藤岡さんである。テーマは「水」。平成 6(1994)年、正岡子規、若山牧水、窪田空穂、太宰治、穂積忠、井上靖の 6 人の碑が建立。平成 12(2000)年に司馬遼太郎、平成 16(2004)年に大岡信、宗祇法師、小出正吾、平成 18(2006)年に十返舎一九の碑が建立され全部で 11 人となった。現在では三島市民だけでなく、観光客がそぞろ歩きの中、文学碑の前で歩みを止める姿が多くみられる。周囲の風景にもすっかり溶け込み、三島の観光スポットの 1 つとして定着している。

連歌師 宗祇 『古今和歌集』研究の第一人者東常縁（とうのつねより）が、連歌師宗祇にその奥義を秘伝として伝授したのが三島・願成寺である。学者であり岐阜の武将でもあった常縁は三島に陣を構えた。宗祇は、文明 3(1471)年正月から約 3 カ月、滞在先の裾野・常輪寺から常縁のもとに通い、伝授を受けたという。この時、常縁の息子の病氣平癒を祈願し詠んだとされる『三島千句』が三嶋大社に奉納されている。この歴史的エピソードを知ってほしいと「古今伝授のまち三島」と名付け、10 年前「三島宗祇法師の会」を立ち上げた。

児童文学者 小出 正吾 水辺の文学碑に選ばれた 11 人のうち、純粋に三島生まれ三島育ちと言えるのは小出正吾ただ 1 人である。日本でも有数の文学的風土を有する三島から、これまで傑出した文学者が多く輩出しなかったのは意外である。「小出正吾児童文学顕彰会」では、毎年市内の小中学生から小出作品の感想文を募集。その中から優れた作品を 20 点ほど選び顕彰し、「文芸三島」に掲載している。未来の文学者の卵の養成を考えてのことだという。この会の第 2 代会長を務め、マップ「小出正吾児童文学散歩道」や冊子「作品の解説」を作成し、小出文学の素晴らしさを内外に発信している。

文人 呑山 三河に生まれ、実業家として活躍していたが 45 歳ごろ実業界を去り文人としての道を歩み始めた。漢詩、茶道、書道、絵画、造園、建築などに精通。度々訪れていた三島の風土や歴史に魅せられ、80 歳の昭和 8(1933)年から 10 年間、三島に住んだ。水上孤池の畔に居を構え、そこは知的向上心に燃えた有力門人たちが集う所となった。昭和 9(1934)年発行の漢詩集『三島竹枝』には、三島の風俗、人情などが詠みこまれ、三島への深い理解と愛が感じられるという。三島竹枝碑（詩塚）が愛染院跡に建つ。平成 8(1996)年に結成された「呑山会」は今も続く。



平成 20(2008)年、1 万点もの貴重な文学資料、蔵書を三島市に寄贈。その一部が三島市民生涯学習センター 2 階に開設した「日本文学資料館」に収められている。多忙の中、文学愛好家とともに、国内外を問わず、文学作品ゆかりの地を訪ねている。「日本三大漂泊詩人といわれる西行、宗祇、芭蕉らは、旅によって文学を作り上げていったんです」と熱く語る。その心情と行動力は三大漂泊詩人と一脈通じているように思われる。

* タイトルの短歌は、歌集『富士百景』の巻頭を飾り、三島への文化貢献を称え建立された歌碑にある藤岡武雄さんの作。

「三島竹枝碑」

生徒数：736人（各学年6
クラス）教職員数：72人

教育の柱の1つとして
環境教育を位置づけている。
ビオトープはその具現
化の1つである。

学校ビオトープの環境状況

元々の環境である湿地
の復元および教育施設と
して設置。学校周辺では伊
豆縦貫道の工事が本格化
している。池には、絶滅危
惧種のメダカ、近くの小川
にいたドジョウ、休耕田か
ら移植したオオジシバリ
など、地域の生き物のシ
ードバンク的な役割を果
たしてきた。堀でなく生
け垣で囲んでいるので、
周辺の自然がビオトープ
へ移動しやすくなっ
ている。

開かれた学校を目指し、
地域との交流も目的に設
置した。看板には、「生き
物の持ち込みや持ち出し
をしない。樹木を折ったり
傷つけない。電気・水道設
備に触らない。餌を与え
ない」という約束が書か
れている。また、周辺か
ら集まる生き物の変遷も
記録している。問題点
は、専門家と相談し、改
善に努力している。



南校校歌
にもある、
オウチ（セ
ンダン）

生徒の環境への取り組み

週1回、各部活動で通学
路の清掃を実施。

1年生は、ビオトープや
生き物について発表。

3年生は、選択科目「自
然探求」でGW三島の出前
授業や南高の教諭から指
導を受け、文化祭で発表。
ビオトープの植物で草木
染めも。池の水質検査を
月1回実施。週2回、ビ
オトープの濾過槽を洗浄。
池の泥は年4回ポンプで
除去し、ポンプも年4回
洗浄。サイエンス部も活
躍。ビオトープ掲示板や
HPで、ビオトープ情報
を更新発信。専門家とも
意見交換。



オオジシバリ



平成20（2008）年夏、ビオトープの完成式。「メダカの里親」に預けてあったメダカや、その子孫メダカを放流し、完成を祝う。

静岡県立三島南高等学校を訪問

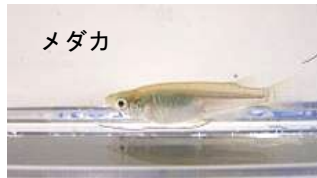


県立三島南高校を訪問し、三島南高初の女性校長である前田喜久子校長に、GW三島の活動への参加や環境教育などについてお話を伺いました。

三島出身ということもありGW三島の活動は以前よりご存知でしたが、今年度の総会に来賓として出席し、より理解が深まったとのこと。生徒のGW三島の活動への参加については、「具体的な参加要請があれば、生徒に広報するなどの協力はしたい。強制ではなくあくまで自主的な参加というスタンスで考えたい」とのお話でした。南高にはボランティア部があり、校内の緑化活動を行っているが、外部からの要請に対しては、可能な範囲で協力していること、部活単位で、通学路の清掃活動も定期的に行っていることなど、環境美化についての活動もお話いただきました。

環境教育については、「環境教育は本校の教育活動の1つの柱として位置づけており、今後も一層推進していきたい。その一環として7月29日には環境講座が本校で開設され、『今なぜビオトープか』という演題で、富士常葉大学非常勤講師（GW三島生態系アドバイザー）の加須屋真先生が講演された」とのことでした。

最後に、女性校長として一言という問いに対し、「女性の社会進出は今後も一層推進されていくと思う。女性校長という存在が、後に続く女性たちにとって、少しでも励みになれば嬉しく思う」と、抱負を語ってくださいました。



メダカ

ビオトープの活用

3年生の選択科目「国語表現」では、ビオトープで俳句を詠む授業がある。平成18年度から、1年生や2年生は、専門家からの「環境講話」（地域住民も参加している）を受講し、ビオトープだけでなく、南高の環境教育についても具体的に示してもらっている。

地域とのパートナーシップ

毎年夏に実施される環境美化活動は、草取りが中心。保護者、同窓会、後援会、教職員、生徒、地域住民、GW三島等が参加し、実施している。作業終了後は、参加者にビオトープについて説明し、理解を深めてもらっている。

サイエンス部を中心に、GW三島の自然観察会や植樹活動に参加し、常に連携を図っている。具体例としては、中郷温水池のホテイアオイ掃討作戦や、松毛川（灰塚川）の植樹作業等。

三南トープの沿革

- 平成15（2003）年、最初のビオトープ工事完成。
- 平成17（2005）年、グランド拡張工事でビオトープを埋め立てることにになり、事前にメダカを「メダカの里親」に預ける。



- 平成18（2006）年、ビオトープを現在地に移設決定し、「里山の未来」のテーマで検討。町内会からも検討委員会委員を募集。

- 平成19（2007）年、「創ろう会」委員が基本設計図提示。作業手順を検討し、①底と底面に土の塗りこみ（PTA、創ろう委員会、同窓会、生徒等多数参加）②除草整地作業③丸太で周回道整備④ポンプの設置等を順次実施。

- 平成20（2008）年、卒業生がビオトープ周辺植栽一式（カシ、オウチ等）を贈呈。①池底面の鉄分浸透表土の削り取り②学校周辺の湿性植物の移植（生徒）③浄化槽から池までの水路を含む浄水設備の整備等の作業を順次実施。



持続性と地域への広がり

学校側では、教頭とビオトープ担当教諭が対外的な窓口になっている。生徒側は、サイエンス部を中心にビオトープの研究や管理活動を行っている。地域住民にアンケート調査を行うなど、より良いビオトープのための努力も続けている。生徒会が募集し、愛称やキャラクターを決定。

「人がつくった環境は遷移しやすい」と言われるが、「毎日の変化を楽しめればビオトープは維持できる」と考えている。静岡県理科研究発表会でも成果を紹介。「県STOP温暖化アクション」エコスクール部門で優秀賞受賞。



布に魅せられて

ほんだ ひろこ
本田 博子さん

河津町出身。結婚を機に裾野市、長泉町に住んだ後、伊豆の国市北江間に居を構え30年余り経つ。求職活動として学んだパソコンを活かしたいと、平成11(1999)年に、『三島アメニティ大百科』の作成に携わる。それがGW三島との出会いとなった。三島ゆうすい会の10周年記念誌と20周年記念誌、『三島パサディナ50年鑑』の作成にも参加。現在、ボランティアニュースの編集委員として活躍中。源兵衛川が大好きで、GW三島の地道な活動に共感しているとのこと。

趣味は和の布で服や小物を作る「布あそび」。着物には日本独特の模様があり見ていて心が和む。この布で何が出来るか想像するのもまた楽しみ。新しくても古くても、破れていても色が褪せていてもみな大事な布だと思う。「アンティーク着物をほどくと、当時着物を縫った人や大切に着ていた人の気持ちに想いを巡らせ、古い布に魅力を感じています」と目を輝かせる。

また、花や鳥を眺めることも趣味の1つ。5年前から庭にひまわりの種を置いたところ、ヤマガラやシジュウカラ、春にはメジロのカップルが訪れ、楽しませてくれる。夫と2人で家庭菜園にも取り組み、季節の恵みを楽しんでいる。収穫した野菜は近所にお裾分けしたり、昔ながらの料理にしたり、時には編集会議の場に差し入れることもあり、手作りを大切にする生活信条が伺える。

「家族全員が健康であることが一番の幸せ。夫との時間も大切に、穏やかに過ごしたい」。



元気で働ける幸せを

みずの いくこ
水野 幾子さん



山梨県都留市出身。英語教師として富士市に赴任。これが静岡県人となるきっかけとなった。退職後、結婚し家事育児に専念。末っ子の入学を機に自分も何か社会のためになりたいと、同じ思いの女性たちと英会話の勉強を始めた。やがて仲間たちと、地域の国際文化交流を目的にグローバル文化交流協会(GIA)を設立。オリジナルの『バイリンガル環境かるた』を作成し、それが縁でGIAはGW三島への当初からの参加団体となり、海外からの視察者への対応にも協力してきた。また、沢地グローバルガーデンの活動には、ご主人共々熱心に取り組んでいる。

最初の英国GW視察研修(平成5年5月)に参加し、様々な環境活動実践地を見学した。5月の英国田園地方ののどかな美しさは忘れられないとのこと。三島でも英国のような環境改善活動が出来ることを願った。

現在、GW三島の評議員。「GW三島は数々の素晴らしい実績を重ねて、今年で20周年を迎えました。これからまた新たな活動が展開されるものと期待しています。その中で私も、元気で働ける幸せを味わえたらと願っています」と、いつものスマイル。



英国のプリンセスパークで植樹

パッション No. 14

「三島ゆうすい会」が地域の方々と「小水力発電装置」を設置

9月9日(9:00~12:00)、残暑の厳しい日曜日、塚田冷子三島ゆうすい会会長宅の前庭に親子数十人が集まり、小水力発電装置「ピコピカ」の初めての設置を試みました。

「三島ゆうすい会」の理事の説明を聞いた後、泉町子供会と広小路子供会の児童は、興味を持って、とても熱心に作業をしました。不慣れなドライバーでの組み立て作業を、男の子、女の子、父親、母親の順に、家族総出の協力体制で取り組み、ついに完成させました。設置場所への移動も、子どもたちが積極的に力を貸し、水路脇に取り付けたLEDランプが点灯したときには、「わあ、点いた!点いた!」と、みんな拍手と大歓声で感激していました。



この発電装置の出力は、ほんの数ワットの小さなものですが、小水力発電への関心を引き起こし、再生可能エネルギーに対する啓蒙活動へのキッカケとして、大いに活用されるものと思われます。また、学校教育に活用されることも期待しています。

装置の設置場所は宮さんの川の側溝で、LEDランプは、昔、宮さんの川で水遊びをしていた子どもたちの白黒写真の辺りを、絶え間なく優しく照らしています。



キヤノンM」援農活動



10月13日 キヤノンマーケティングジャパングループは、社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」を全国各地で展開中。3年目となる今回は、三島市御園の畑で援農体験活動を行った。畝の間にある雑草を処理。次に冬野菜を植え付ける畝づくりとハナナ（通称；菜花）の間引き。その後ブロッコリーの苗の植え付けとハウレンソウの種まきをした。昼食後、黄色いラディッシュとちょっと小さめの大根を収穫体験した。

畝の間にある雑草を処理。次に冬野菜を植え付ける畝づくりとハナナ（通称；菜花）の間引き。その後ブロッコリーの苗の植え付けとハウレンソウの種まきをした。昼食後、黄色いラディッシュとちょっと小さめの大根を収穫体験した。

親子での体験観察会

10月13日、コープしずおかの呼びかけで自然観察会が行われた。三島市、伊東市、伊豆市より2歳～小学6年生を含む計18人が参加。源兵衛川清流の生き物やミシマバイカモを観察しながら水辺散策をした。川の中に入って、生き物探しや「ちゃんかけ拾い」を体験した。



境川・清住緑地の稲刈り

10月13日、「境川・清住緑地愛護会」主催の境川・清住緑地子どもグリーンクラブ第5回「秋の植物観察と稲刈り体験」を行った。三島市立西小学校などの親子約80人が参加し、稲刈りと牛かけを体験した。その後、菅原久夫講師による植物観察会を行った。



源兵衛川希少種水族館が引っ越し

6月9日、「三島街中カフェ」のリニューアルオープンに伴い、水族館はGW三島事務局へ移転。移転後も公開し見学者が訪れている。普段はなかなか見られないホトケドジョウ、トウヨシノボリなど間近に観察できる。見学可能時間は平日9:30～18:30。



中学生の職場体験



10月30、31日に「ゆめワーク三島」の一環で三島市立中郷中学校の生徒が職場体験。源兵衛川周辺、三島梅花藻の里の清掃、箱根西麓そば畑の雑草取り、三島街中カフェの手伝いをした。

11月21、22日には、三島市立北中学校2年生が職場体験。三島街中カフェで開店準備と接客、松毛川では理科教員研修の裏方の手伝い、三島梅花藻の里で定例作業の手伝い。三島市大場で三島そばの選別作業に挑戦した。



鎮守の森探検隊

11年目を迎えた今年度も、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて行っている。

- 第1回 7月22日 三島市・源兵衛川
「調べてみよう！川のきれい度と川虫の関係」
第2回 7月28日 富士宮市・西臼塚
「富士山麓の草原に生きる昆虫と花の観察会」
第3回 8月10日 三島市・山田川
「光を灯して、夜の虫の観察会」
第4回 8月25日 長泉町・窪の湧水
「発見！みんなの身近な湧水池～窪の湧水～」
パックテストを用いた水質検査と生き物観察。調査の結果は、水温15℃、無色透明なきれいな水と判明。水生生物と鳥・昆虫などを観察。窪の湧水は、低水温で水がきれいいためプランクトンが少ないので、生き物も少ない。
第5回 9月8日 清水町・柿田川
「東洋一の湧水量がもたらす貴重な自然」
第6回 10月20日 沼津市・千本松原
「秋の千本松原を探検しよう！
松林ときのこの奇妙な関係」
第7回 11月4日 伊豆市・遊々の森
「五感を使って、森と友達になろう！」



さまざまな学びの体験

11月2日 三島市立山田小3年生87人を、源兵衛川第4ゾーンから、雷井戸、水の苑緑地、三島梅花藻の里、搗屋のみち、白滝公園と案内。ミシマバイカモの保護保全、移植について説明。



11月19、20日 静岡県立三島長陵高等学校の生徒33人が、源兵衛川流域での体験学習と講義を受けた。

11月22日 三島市立北中1年生51人を、GW三島のインストラクター6人が源兵衛川の体験学習に案内した。生徒は、源兵衛川の湧水の仕組みや、生き物、水質等について、熱心に質問していた。

11月21日 静岡県高等学校理科教員研究会東部支部主催の松毛川研修会が開催され、県内の高校理科教員25人が参加した。富士常葉大学非常勤講師の菅原久夫さん、同附属環境防災研究所の関川文俊さん、法月直也さんを講師に迎え、豊かな河畔林が残る松毛川左岸をフィールドに、植物調査と魚類調査を実施し、生物多様性や特定外来種について学んだ。また、GW三島インストラクターの指導でボートに乗船し、川面から河畔林も観察した。

「環境美化活動@松毛川」ボランティア活動

10月26日、ファミリーマート伊豆営業所の23人が松毛川で清掃活動を行った。小さなゴミからゴルフバッグまでたくさんのゴミが収集できた。





英国グラウンドワークの近年の動向

～日本のまちづくり事業戦略へのヒント～



1980年代初頭に英国で始まった地域住民、企業、行政のパートナーシップで地域の再生を図る英国GWの取り組みは、1980年代後半に日本に紹介され、GW三島ほか日本各地のまちづくりに影響を与えてきた。

しかし、近年の英国では、経済低迷に伴う財政縮小の影響を受け、組織運営上様々な問題に直面している。これまでの活動を維持、発展させるため、新政府の構想に対応した事業テーマの絞り込み、契約型業務への積極的対応、様々な団体との合弁企業、CSR(企業の社会的責任)との事業企画などがある。これら基本的戦略に基づく具体的対応策が社会的企業化である。その先駆的取り組みを行っているのがGWテムズバレーであり、事業テーマは主に荒廃地の環境再生、コミュニティの再生、環境教育、職業訓練の4つである。ここでは、主な事業2つを取り上げてみよう。

グリーン・ドクター事業

燃料貧困層世帯を対象に、省エネ指導助言サービスを行い、低炭素の生活やコミュニティの形成を支援するものである。英国全土の燃料貧困層は全世帯の約18%で、その8割が高齢者、子ども、障害者がいる脆弱世帯である。

グリーン・ドクター事業は、こうした世帯を対象に実施する省エネ型居住環境づくりの訪問アドバイスと、無料の省エネ機器導入のサービスで地域から高い評価を得ている。最終目的は、彼らが自主的に省エネ行動が出来ることである。さらに節水対策への対応も行い低炭素型社会づくりへの有意義な取り組みも行っている。これら2つの事業の他に安全なコミュニティづくりのためのホームセキュリティ事業として、古い住宅の鍵の交換なども行っている。

現在これら3つの事業をパッケージ化し、社会的企業の子会社の設立を企画中である。燃料貧困層のみを対象とする無料サービス事業を一般家庭まで対象にした有料サービス事業に広げることで、収益性を持たせ、本来事業への再投資を図るビジネス・モデルは、日本のまちづくりNPOの事業戦略の参考になるものである。

社会的企業「ブルー・スカイ」の活動

刑務所の出所者を雇用し職業訓練を実施する事業である。2005年に設立され、犯罪歴のある者しか就職できない英国唯一の企業として2010年、全英の社会的企業大賞を受賞するなど注目を浴びている。

英国では出所者の8割以上が出所後に仕事がないのが現状である。これは「再犯を断ち切ることで地域社会に長期的利益をもたらすこと」をミッションとし、出所者が地域社会で環境改善事業に携わる職業に就く活動を行っている。社会的弱者の生活安定が図られると共に、犯罪対策にかかる社会的コストの低減や安全安心な地域社会の形成に寄与している。

ブルー・スカイはグリーン・ドクター事業と同様、英国社会の抱える社会的排除問題に取りくむ先進的な事業である。NPOへの補助金が懸念される中で、このような新規分野を開拓し、特化したテーマに取り組む社会的企業により、補助金に頼らないビジネス・モデルを確立する試みは大いに評価できる。

過ぎゆく三島 いつまでも その11

水底にしづく圓葉の青き藻を射し入る光のさやかに照らす

歌人・窪田 空穂

くぼた うつぼ

窪田 空穂(明治10年～昭和42年、1877～1967) 歌人、国文学者。本名通治。明治、大正、昭和の三代にわたって歌壇の大家として数々の名作を残した。また『万葉集評釈 巻1～20』など古典の評釈は特に評価が高い。長野県東筑摩郡和田村町区(現松本市大字和田)出身。兄1人、姉2人の4人兄弟の末子。当時の和田村は、商家の1軒もない純農村で空穂の家も自作農であった。

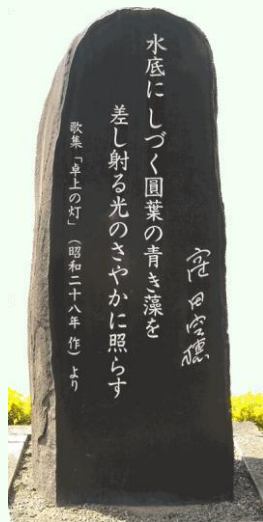
明治20(1887)年、和田村小学校尋常科修了。同年松本高等小学校高等科入学から松本尋常中学校5年卒業までの8年間(10歳～18歳)、往復4里(約16km)の道のりを徒歩通学する。この日々の歩行が彼の身体を鍛えた。農家の末子に生まれた彼は、いずれ故郷を出る身と感じ、将来を考え東京専門学校(現早稲田大学)文学部国文科に合格。しかし、翌年家庭の事情で退学し、故郷に帰り両親を看取った後、小学校の代用教員などを経て23歳で再入学、27歳で同校を卒業。晩学であった空穂は、家族を養うために職場を転々としたが、その職業は詩歌や文学などに関連していたので、多くの短歌や著作物がある。その中の1冊『奈良朝及平安文学講和』が坪内逍遙の目に留まり、その推挙により43歳で大正9(1920)年に創設された早稲田大学国文学専攻科の講師に就任。71歳で同大学文学部教授を定年退職。後に早稲田大学名誉教授となり、昭和33(1958)年81歳で文化功労者となる。

文学碑の短歌は、昭和28(1953)年夏、沼津千本浜の知人、御木氏邸に滞在し、裾野、三島を訪れたときのもので、歌集『桌上的灯』の中に、三島市・楽壽園と題して9首が詠まれている。『元、小松宮の別邸なりしが、後、李王家の有となり、現在は三島市の公園となれり。一萬八千坪とぞ』との解説があり、湧水の小浜池を詠んで、青葉のゆらぐ清らかな池を描き出している。下記のほかにも4首がある。

富士が根につもるしら雪忍水となりて涌き来るこの大き池
富士が噴ける溶岩ここに流れきて凝れる岩とぞ池の中島
この池の清きに棲みて群るる魚鯉かど見ゆれ皆身の細し
池尻を流れいづる水廣瀬なし底の青藻を揺りきらめかす

参考文献

- ◆『窪田空穂全集』第三巻 歌集3『桌上的灯』(昭和42年4月15日初版発行所(株)角川書店)
- ◆『窪田空穂の歌』(平成20年6月8日初版 発行所(株)角川学芸出版)
- ◆『水と緑と歴史のまちへようこそ 三島水辺の文学碑』三島ライオンズクラブ発行





三島市内の写真集

撮影者：みしま こまち
 撮影場所：沢地グローバルガーデン
 撮影年月日：2012年8月18日
 ひとこと：大人たちのガーデン作業中は、
 広いガーデンの夏草と遊び、休憩時間
 には、湯呑茶碗の音遊びに笑顔のアク
 シャラちゃん。インドからやってきた
 レディさんご一家の長女で、2歳。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日に一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。
 Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます！

「子どもを元気に！富士山プロジェクト」ほかGW三島の活動のために
 ＊アンパブル・トリコッタ 209,000円
 ＊ファミリーマート長伏店 23,160円
 合計 232,160円

株式会社NTTドコモ東海支社より助成金



9月26日、株式会社NTTドコモ東海支社の大林正幸総務部長、水野等社会環境担当主査、土屋点広報室長がGW三島事務局を訪れ、「GW三島の活動に役立てて」と、助成金50万円の目録が小松幸子GW三島理事長に手渡された。

GW三島活動記録 2012年8月1日-2012年11月30日

月	日	曜日	事業名	内容	場所	人数
8	5	日	復興支援グラウンドワーク・イベント	体験学習・実践地視察	源兵衛川、箱根西麓、松毛川	165
			源兵衛川生物多様性保全活動	中流部ワンデイチャレンジ	源兵衛川第4ゾーン	50
			境川・清住緑地子どもグリーンクラブ	③調べてみよう！境川や湧水池の魚	境川・清住緑地	12
8	10	金	源兵衛川生物多様性保全活動	源兵衛川ミニミュージアム(キョウトーク、魚・水生生物の展示)	大中島会館	188
			鎮守の森探検隊	③光を灯して、夜の虫の観察会	山田川自然の里	35
8	11	土	松毛川子どもグリーンクラブ	④松毛川ワンデイチャレンジ(竹林伐採)	松毛川	22
			源兵衛川生物多様性保全活動	源兵衛川の魚・水生生物の観察	源兵衛川第4ゾーン(三石神社)	40
8	13	月	ホトゾウ生息環境再生活動	源兵衛川第7ゾーンワンデイチャレンジ(外来植物除去、搬出など)	源兵衛川中・下流部	20
			源兵衛川生物多様性保全活動	源兵衛川の水生生物の観察	源兵衛川第7ゾーン	20
8	21	火	街中にぎわい再生	エコ・アグリ・スタディ・ツアー「三島街中・鎮守の森めぐり」	三島市内	25
8	23	木	環境コミュニティ・ビジネス	エコ・アグリ・ツアー「箱根西麓の農村資源と歴史めぐり」	三島市内	18
8	24	金	源兵衛川生物多様性保全活動	源兵衛川生き物調査(遠藤、菅原、関川講師)	源兵衛川流域	22
			鎮守の森探検隊	④発見！みんなの身近な湧水池～窪の湧水～	窪の湧水	15
8	25	土	そばつくり隊	「三島そば」種まき作業(2箇所)	三島市川原ヶ谷	31
9	2	日	境川・清住緑地子どもグリーンクラブ	④調べてみよう！境川と湧水池の川虫	境川・清住緑地	16
9	3	月	日韓青少年環境交流(9/3～6)	松毛川記念植樹、富士山エコツアー、フォーラム等	三島市内	10
9	7	金	松毛川千年の森づくり	竹林伐採と竹チップ・竹しがらづくり	松毛川右岸(御園)	20
			松毛川子どもグリーンクラブ	松毛川右岸の竹の伐採と竹チップづくり	松毛川右岸(御園)	25
9	8	土	鎮守の森探検隊	⑤東洋一の湧水量がもたらす貴重な自然	柿田川・清水小学校教材園	15
9	9	日	松毛三日ふるさと協議会	ふるさとの川・松毛川の野鳥と河畔林の観察	松毛川	20
9	11	火	そばつくり隊	「三島そば」追加種まき・草刈り作業	三島市川原ヶ谷・2カ所	10
9	12	水	環境教育(9/12・13)	三島南高自然探求「伊豆の自然」(山田健次講師)	三島南高	61
9	13	木	日韓青少年環境交流(9/13～16)	大学生と事務局スタッフ韓国・済州島を訪問	韓国	16
9	19	水	水の都・三島街中再生協議会	源兵衛川生き物観察会	源兵衛川第4ゾーン	27
9	28	金	腰切不動尊例祭	例祭	腰切不動尊	10
9	29	土	第3回理事会・第2回評議員会	現地視察など	三島市内、三島街中カフェ	18
			源兵衛川ふるさとの川づくり	三島中央病院職員源兵衛川ちゃんかけ拾い	源兵衛川第4ゾーン周辺	22
10	6	土	源兵衛川生物多様性保全活動	源兵衛川下流部環境再生ワンデイチャレンジ～草刈り大作戦	源兵衛川第7ゾーン	15
			環境教育	三島市小中学校初任者教員研修	三島市内	22
10	13	土	境川・清住緑地子どもグリーンクラブ	⑤秋の植物観察と稲刈り体験	境川・清住緑地	80
			環境コミュニティ・ビジネス	キヤンM：援農活動(冬野菜の種まき)	御園園場	10
			環境教育	コープすおが自然体験企画「源兵衛川水辺観察会」	白滝公園・源兵衛川流域	18
10	20	土	鎮守の森探検隊	⑥秋の千本松原を探検しよう！松林とこの奇妙な関係	沼津・千本松原	25
			源兵衛川ふるさとの川づくり	源兵衛川自然観察会	源兵衛川流域	20
			ふるさと三島・農と街中連携協議会	グリーン・ジョブ研修①	三島市内	10
10	25	木	環境教育(10/25・26)	三島南高自然探求「里山の自然を探る①」(菅原久夫講師)	三島南高	61
10	26	金	松毛川清掃活動	ファミリーマート伊豆営業所協働	松毛川	23
10	30	火	ゆめワーク三島(10/30・31)	中畑2年職場体験(ミシマバイクモの手入れ、農作業、接客)	三島市内、三島街中カフェ	2
11	2	金	環境教育	山田小3年出前講座	源兵衛川、三島梅花藻の里	87
			そばつくり隊	「三島そば」収穫作業	三島市川原ヶ谷	25
			鎮守の森探検隊	⑦五感を使って、森と友達になろう！	伊豆市遊々の森	20
11	6	火	そばつくり隊	「三島そば」分別作業	三島市大場	5
11	8	木	環境教育(11/8・9)	三島南高自然探求「里山の自然を探る②」(菅原久夫講師)	三島南高	38
11	9	金	小麦つくり隊	三島小麦栽培①堆肥・肥料まき	三島市御園	6
11	10	土	境川・清住緑地子どもグリーンクラブ	⑥木の葉や実で遊んでみよう	境川・清住緑地	12
			そばつくり隊	三島そばの分別・磨き作業	三島市大場	10
11	17	土	ふるさと三島・農と街中連携協議会	グリーン・ジョブ研修②	三島市内	9
11	19	月	環境教育	三島長陵高「地域研修1体験学習(田村和幸講師)」	源兵衛川流域	15
11	20	火	環境教育	三島長陵高「地域研修」講義(渡辺豊博講師)	三島長陵高校	18
11	21	水	視察研修	静岡県高等学校理科教育研究会研究協議会生物部会	松毛川	25
11	22	金	ゆめワーク三島(11/21・22)	北中2年職場体験(松毛川、三島梅花藻の里、農作業)	三島市内	4
11	22	金	環境教育	北中1年体験学習(源兵衛川等)	源兵衛川流域	51
11	24	土	ふるさと三島・農と街中連携協議会	グリーン・ジョブ研修③	三島市内	9
11	25	日	松毛三日ふるさと協議会	松毛川植林活動	松毛川	20

視察来訪者記録 H24.8.1～H24.11.30

月	日	団体名	人数	地域
8	30	藤枝市青島南地区行政センター	38	藤枝市
9	4	日韓青少年環境交流事業(9/4～6)	12	韓国
10	2	外国人記者の県内見学ツアー	10	欧米圏
10	12	青少年育成都留市民会議	20	都留市
11	19	静岡県立大学「DREAM SEEDS」	21	静岡市
11	21	県高校理科教育研究会研究協議会	25	静岡県
11	21	第一学院高等学校	3	港区
11	27	JICA国別研修オマーン	5	オマーン

オマーン視察団、水辺再生に感激



11月27日、オマーンの視察団が熱心にGW三島の実践地を視察。案内役は小松幸子GW三島理事長。昼食は三島街中カフェでとるなど、人づくりや街づくりへの取り組みにも関心を示した。

母国ではマングローブの生態系管理も行っているので、ミシマバイクモの再生保護活動や、松毛川千年の森づくりの植林等にも注目していた。



洗心亭・

高齢者介護よろず相談室は常設として、加茂川町賀茂川神社前の「悠遊工房ひろかわ」に移転しました。認知症介護、医療、社会貢献等についての相談を、原則として10時から16時まで、毎日受け付けています。また、笑福亭として、昔話に花を咲かせてしゃべりまくっています。お気軽にお立ち寄りください。
 遊水匠の会&幼老生き生きねっと支援隊 代表 小浜 修一郎

〈定例作業〉

- 三島梅花藻の里・・・17回
- 鏡池ミニ公園・・・4回
- 桜川・・・4回
- 宮さんの川・・・毎日
- 源兵衛川・・・1回
- 沢地グローバルガーデン・4回

〈定例会〉

- インストラクター会議・・・2回
- 編集会議・・・10回

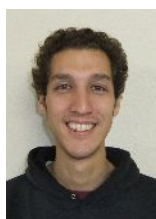
GW三島事務局の新スタッフ



ジェイソン・
カンタウエイ



にしほり まゆみ
西堀 真由美



しげつへい
スプリチャル 修 平ルイス

グラウンドワーク三島編集室 ボランティアニュース 48号の編集ほか(50音順)

加藤 美穂 岸野 和子 城所 俎帝 小松 幸子 斎藤 彩子 本田 博子 前田 充子
 水野 幾子 村澤 圭 山崎多紀子 山田 勝造 (GW三島事務局担当：村上 茂之)